

不活化ワクチン

B型肝炎



B型肝炎ってどんな病気？

B型肝炎は、B型肝炎ウイルス(HBV)の感染によって起こる肝臓の病気です。乳幼児がHBVに感染すると、すぐには肝炎を起こさなくても、HBVが肝臓に住み着いた状態(キャリア)になりやすく、成人になった後に肝硬変・肝がんを発症したり、免疫が落ちたときに重度の肝炎(劇症肝炎)を引き起こすことがわかっています。そして、持続感染すると生涯にわたって経過観察をしていく必要があります。

感染経路は大きく分けて2つあり、①HBVに感染しているお母さんが出産する際に、赤ちゃんが産道で血液と触れることで感染する垂直感染、②周囲の人との接触(血液や唾液など)から感染する水平感染があります。垂直感染は妊婦のHBV検査などから対策が取ら

れており、現在ではほとんどが予防されています。一方で水平感染は、その対策が急務とされています。

日本ではHBVの持続感染者が110～140万人いると推計されています。ワクチンで予防できることを知らずに感染してしまった人や自分が感染していることに気づいていない人が多く存在します。感染すると、HBVを完全に排除することは難しいです。HBVから子どもたちを守るために、海外では、全ての乳幼児にB型肝炎ワクチンの接種(ユニバーサルワクチン)を行っている国が多くなっています。日本でも、全ての子どもたちへのワクチン接種が求められています。

●対象者①の接種日(母子感染予防)

HBIG・HBワクチン接種(生後12時間以内を目安)

月 日

HBワクチン接種
2回目
(生後1カ月目)

月 日

HBワクチン接種
3回目
(生後6カ月目)

月 日

●対象者②の接種日(任意接種)

HBワクチン接種
1回目

月 日

HBワクチン接種
2回目

月 日

HBワクチン接種
3回目

月 日

20～24週

接種を受ける時期と間隔は？

●対象者①

母子感染予防の対象者、B型肝炎抗原陽性の母親から生まれたお子さん(母子感染予防:健康保険適用)。

●回数

生後12時間以内を目安に(生後12時間以降でも接種可能であるができるだけ早期に接種)、HBIG(HBグロブリン(B型肝炎に対する抗体をたくさん含んだグロブリン))とHBワクチン(B型肝炎ワクチン)を注射。さらに、生後1カ月目、生後6カ月目にHBワクチンを注射。

●対象者②

対象者①以外の人(任意接種)

●回数

3回の注射(1回目から4週後に2回目、更に、20～24週を経過した後に3回目)。

日本小児科学会では、生後2カ月からの接種を推奨しています。

B型肝炎ワクチンの副反応は？

●だるさ、発熱や接種部位の痛みなどが報告されています。問題となるような副反応の頻度はきわめて低いです。

